

日本大学鶴ヶ丘高等学校同窓会誌

Izumi

2011年 4月



同窓会の運営について

同窓会では会員相互の親睦を図ることを目的に、以下の支援をさせていただきます。

お問合せ等がある場合は何なりとおっしゃってください。



●同窓会を開きたい

学年単位・クラブ単位での実施にあたり、卒業生ご本人のご了解をいただいたうえで開催内容の連絡をします。

(詳しくは同窓会事務局までご連絡をお願いいたします。)



●各種会合のお知らせをしたい

クラス会やクラブOB会などの開催案内を同窓会ホームページに掲載します。

(詳しくは同窓会事務局までご連絡をお願いいたします。)

連絡先

日本大学鶴ヶ丘高等学校 同窓会 事務局

住 所：〒168-0063 東京都杉並区和泉 2-26-12

メール：tsurugaoka@ntdosokai.org

※個人情報の取り扱いに関しまして

当会では、取り扱う個人情報の重要性に鑑み、これを適切に保護するため、個人情報の取得・利用・管理に関するプライバシーポリシーを設け、適切な運用方法を定めております。



日本大学鶴ヶ丘高等学校同窓会

平成二十二年会報 (CONTENTS)

○同窓会の運営について

◆同窓会会長インタビュー……………阿部 栄介(昭和五十五年卒業)

◆校長先生インタビュー…川瀧 幸一(日本大学鶴ヶ丘高等学校 校長)

○創設五十周年記念寄付のお願い

◆緊急企画・日下先生退任インタビュー……………日下 修次

◆FOCUS・卒業生インタビュー…木村 春樹(昭和四十三年卒業)

◆FOCUS・卒業生インタビュー……………牛垣 雄矢(平成九年卒業)

○いずみで新発見!!

○同窓生のお店探訪

※去る3月の東日本関東大震災におきまして被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。本会報は2月下旬から3月下旬にかけて制作されました。インタビューに関しましては震災前に実施したものがありますのでご了承いただけますと幸いです。
※本年の会報は昨年と趣を変え、若手編集スタッフを加えて制作させていただきました。インタビューも編集スタッフが直接取材しております。



もらって活気のある同窓会にしたいと考えています。また、お年を重ねた方々のご意見はとても貴重ですので、若い人のアイディア・ご意見と合わせて、行動に移せるようなフットワークの良い組織づくりをしていきたいと思えます。そのためには、ぜひ若い卒業生にも同窓会に参加して頂きたいと存じます。しかし参加しようと思っただけのためには若い人たちにとってメリットが無ければ難しいと思います。そのよ

うなメリットを感じる企画を多くしていきたいと思っております。

それから学校側から見て「同窓会の活動内容がわかりづらい。」というご意見をよく伺います。これは同窓会が今まで、活動内容をわかりやすく伝える、認識して頂くという行動が少なかつたことが主な原因だと思えます。これからは段階的にはありませんが、同窓会の活動内容を学校側に認識していただけるような努力にも注力していくことが大切だと考えています。やはり学校があつての同窓会ですから。この二点は現在の最重要課題です。

—では、これから同窓会で取り組んでみたいことはありますか？
まず直近の課題ですが、今年の鶴ヶ丘祭の出版方法を変えたいと思います。これまで鶴ヶ丘祭での同窓会のブースは入りづらい雰囲気が多量ありました。

これからは幅広い年代の方々に来て頂くために様々な手法を凝らしていきたいと思えます。

将来、母校の発展に何が必要かを明確に捉え、お手伝いをすることが出来る組織にしていきたいと思えます。そのために現在、役員と話を重ねており、今後具体的な内容を煮詰めていきます。その他にも様々なプロジェクトの立案もあります。まだ、基礎

的な検討段階ですので道のりは決して楽ではありませんが、実現に向けて動いていきます。

—最後に同窓会を運営する上で阿部会長が考える最も重要な事は何でしょうか。

私は「先輩は後輩を育て、後輩は先輩を敬う」その心さえ持っていれば確実に同窓会はさらに良い組織になると思っております。



Top
Interview



昭和55年卒業
同窓会会長
阿部 栄介



—では現在、具体的な同窓会の業務はなんでしょうか？

おもに名簿の整理や個人情報の保護などの業務です。これは着実に進めており確実に実施してこられたと思います。次にこの会報誌の発行です。これからは新しいことを進めていきたいと考えています。そして、これまでは、更新が少なかったホームページの更新を定期的に行える体制作りも整えてきています。このホームページを利用して同窓会活動の広報も始めているところです。

—現在の同窓会の課題をお聞かせください。

今まではどうしても中心となる役員の年齢が偏っていて、新しいアイデアも多くはありませんでした。そこでこれからは若い方たちにも積極的に参加して頂き、新しいアイデアを出して

会長インタビュー

現在、改革を進めている鶴ヶ丘高校同窓会。同窓会が現在抱えている課題は何なのか、同窓会が見据える未来とは何なのか。同窓会会長である阿部栄介氏に伺いました。

「母校の発展のために何かお手伝いができる、そんな組織にしていきたい。」

—ご存じでない方も多いと思う

ので改めて伺います。まずは同窓会とはどのような理念を持つ組織ですか？

「『世代を越えた人と人との架け橋になる役割を担う』という理念を基に運営する組織です。」

れたため特進クラスの生徒は最初戸惑っていたようですが、最終的に「良かった」という声を聞きます。これからも生徒にとつて居心地が良く、互いに勉強しやすい環境に配慮し、入学して良かったという学校にしていきたいです。

公立高校は授業料が無償になりますし、始めから進学に重点を置いている高校もありますから、それ以上の魅力を引き出すために教師一同全力で取り組んでいます。しかしそつなるとつ問題点があります…。

—その問題点とは？
—もっとアピールが必要だということですね。勉強だけでなく日々の生活指導など総合的に力を入れてるので、最近では他の学校から「鶴高は勝ち組」と言われることもありますが、その一方で「鶴ヶ丘高校がどこにあるのか分からない」という声も絶えません。

—確かに分かりづらい場所にありますからね…。私も一度、タクシーの運転手さんの道案内をしたことがあります。
—そうでしょう。そのためにも電柱を利用して鶴高までの順路を作ったり、夜中の高速道路を利用する方にもアピール出来るように、屋根に設置してある学校名をライトアップするなどの意見が出ています。

—学校案内といえば、私たちが在学中の時より対外的な広告が増えたように思います。例えば京王線の中吊りで見かけたりしますが…。
—確かに増えています。渋谷駅の井の頭線改札の近くの電光掲示板でもテロップを流していますが、毎日同じ時間にしか流れないので、これからも色んな形で

多くの方の目に止まるようアピール方法を検討していきたいですね。
—では今後のアピールポイント、例えば新たな設備の設置などの予定はございますか？
—24年度にはグラウンドが人工芝になる予定なので、それに伴い防球ネットを伸ばして打球が外に出ないようにします。野球、サッカー、アメフトなど、グラウンドは色んな部活で使用しますから、活動の妨げにならないように整えたいです。

しかし最近、男子生徒よりも女子生徒の入学者の方が多いので、アメフトなど部員確保が困難にならないか心配ですね。
—男子求む、ですか。
—(成績優秀な)男子求む、です。
—野球部も甲子園出場を果たしましたからね。そういえば体育祭が実行されたと聞きましたが、行事面もますます充実していますね。
—はい。体育祭は生徒会を中心に開催の希望があったので、約40年ぶりに行うことが出来ました。やりたい、実現したいということ

は率先して取り組んでいます。さらに今年から、一・二年生全員を対象に英検の資格取得のためのカリキュラムを組んでいます。そのためにインターネットを通じて使用できる英検の専用ソフトを導入し、自宅や学校のパソコンから学習できるようにします。卒業までに全校生徒が二級以上取得することが目標です。

—本校はスピーチコンテストやオーストリアへの留学など、海外での活動にも目を向けた取り組みが盛んですからね。修学旅行も海外ですし。



Principal
Interview

日本大学鶴ヶ丘高等学校

校長

川瀧 幸二



校長先生インタビュー

れたことですが…。

制服については着任した時から新しいデザインへの検討が行われていたので実行に移しました。「こうすればもっと良くなる」という提案に対しては、積極的に承認をしています。例えば、制服以外にも校舎内外の設備がところどころ変わっていますが、知っていましたか？

―校舎全体が耐震補強されていることは、エントランスに入っただけですぐ気付きました。その他にも音楽室が広くなり、特進クラスが美術棟に移動されたと聞いております。

音楽室は吹奏楽部の要望があったため拡大しました。楽器を置くスペースも確保されたため、他の教室からわざわざ楽器を運び出す必要がなくなりましたね。

美術棟も以前より綺麗になっており、授業のしやすい環境になっています。校舎から教室が離

川瀧幸二先生が鶴ヶ丘高校の

学校長に着任されて6年が経ちました。その間に鶴高で起こった変化や、これからの展望、そして現在在学中の生徒達の様子などについて談笑を交えながらお話

を伺いました。

―つい数年前まで在学中だった

方は、当時のことを思い出しながら、常に進化を遂げている鶴

高の魅力を再確認して下さい。

―お子様やお孫様を入学させよ

うか検討中の方にも、参考にしたいだけなら幸いです。

―まず始めに、18年度の卒業生から見て一番に気付いたことは、やはり制服のデザインが変更さ

れたことですが…。

制服については着任した時から新しいデザインへの検討が行われていたので実行に移しました。「こうすればもっと良くなる」という提案に対しては、積極的に承認をしています。例えば、制服以外にも校舎内外の設備がところどころ変わっていますが、知っていましたか？

―校舎全体が耐震補強されていることは、エントランスに入っただけですぐ気付きました。その他にも音楽室が広くなり、特進クラスが美術棟に移動されたと聞いております。



は、生徒達にとっても良い経験になると思います。

— 鶴高では自身を高める機会が多く設けられているので、とても充実した学校生活を送ることが出来ますね。

では最後に、これまでお話を伺ったような鶴高での生活を経て、在学中、もしくはすでに卒業した生徒に求めるものはございますか？

先ほど、「世界に羽ばたける人材」になってほしいと言いましたが、そのためにもまず、すべての生徒達が元気に挨拶を出来なくてはいけません。態度にしろ身だしなみにしろ、人に不快感を与えては駄目です。そのためにもこれからもっと生活指導を徹底していきたいです。

そして卒業した後も、自分の目標に向かって突き進む力を身に付けてほしいですね。たとえ

困難なことがあってもへこたれてはいけません。これからは社会がますますグローバル化されていきますし、今まで以上に自らのスキルを磨かなければ太刀打ちできない状況になると思います。それでも、自分が培ってきたものを活かしながら、「自分は一じゃない」という意識を持って、全力で取り組んでもらいたいです。その中で、成功する生徒がいたら尚嬉しいですね。

そして同窓会はもっと活発になっていただきたいです。

— ご期待に副えるよう、私たちも努力したいと思います。

本日はどうも有難う御座いました。

Principal
Interview



やはり生徒たちには「世界に羽ばたける人材」に成長してもらいたいですからね。先生方もどのようにしたら生徒が伸びていくか常に考えていますし、学校側はそれをどんどん後押ししていきます。

—設備や行事以外に懸念していることはございますか？

先ほども問題として挙がりましたが、住宅街の中にある学校なので、近隣住民の方々とのトラブル回避が課題です。

体育祭が長年再実施できなかった理由の一つに、騒音による苦情が挙げられます。住宅街に隣接している以上、やはり地域に好かれ、地域のために貢献出来る学校でなくてはなりません。

18年度卒業の人は知らないと思いますが、最近では和泉小学校の生徒と鶴高の生徒の交流が盛んになっています。じゃれつき

遊びや、勉強を教えることは勿論ですが、部活動単位でも様々なお手伝いをしています。例えば、サッカー部がサッカーを指導したり、吹奏楽部が記念日に演奏をしたりします。学校からも、研究発表がしたいという要望に答え、多目的ホールを開放したりしました。

吹奏楽部といえば、杉並区の税務署のパレードにも参加させていただきました。

—在学中に野球部が通学路を清掃しているところをよく見かけましたが、部活動によって地域に根差した活動が活発ですね。

そうですね。その中でもやはり野球部の清掃活動は朝の7時前から行っていますし、通学路だけでなくグラウンドの周りも清掃しています。そのおかげで表彰もされました。

地域のために活動を行うこと



でどんな印象でしたか？

その頃は、男の子ばかりだったよ。やんちゃだね、やんちゃな学校だった。今じゃ考えられないけど、某高校としてよくいう衝突もあったりしたなあ。学校の近くにほかの学校の生徒が来たりした時は生徒間の衝突があると困るから何人かの先生で行って、帰したりなんてこともあったね。

—大変だったんですね(笑)

いや、生徒の質、みたいなものは良かったから楽しかったかな。

—質、ですか。

そう、当時の他の学校の教員仲間から聞いたりして、うちの生徒は良かったと思う。とても生活しやすい環境だったんじゃないかな。僕が思うに鶴ヶ丘で教師が務まらなかつたら他では務まらないと思う。特に生徒の管理についてはね。ただ、その分、指導力が無いと苦労するかもしれないけどね。

—きちんと指導が出来ているよ。

—そうだね、勉強に関しては20年く

日下修次先生

らい前から難関大学に受かるような生徒が始めていたしね。今は、全体のレベルが上がってきているからもうと多くなったけど。それに部活動は野球部だとか空手道部とかが活躍しているのも良い。勉強ばかりっていうのも、部活動ばかりっていうのも良くない。学校っていうのは車の両輪だからさ。

バランス良く保たれてるのは良いと思う。そういう意味でうちはずっとも良いんじゃないかな。

—それが、良い環境、良い雰囲気繋がっているということですか。

—そう、40年以上勤めて苦労したってこともそんなになかったし、先生方も士も風通しが良かったというか、楽しい職場だったよ。

—では、昔と今のカラーと言いますが雰囲気なんかで違う点はどこですか。

—入ったころはバンカラみたいな感じ

だったよ。クラスに女の子は数人て感じだったしね。殆ど男子校だった。

—バンカラですか(笑)当時の先生のお話を少し耳にしたことがあるのですが、何でもナンチャクとかもって生活指導していたとか。

それはあまり覚えてないなあ。ただ、当時古武道の道具は持っていたりとかして練習したりはしたけどね。六尺棒っていうのがあって、それ持ってみ張りにしていたことはあったんですよ。今みたいに管理もされていなかったからどこからでも校舎の外に出れちゃったから。だから昼休みは忙しかったよ。

—六尺棒とはまたすごいですね。では、昔から変わらないところってどこですか。明るいよね、明るく元気ってところは変わらないよ(笑)

—逆に、いつ位から鶴ヶ丘の雰囲気は

変わってきたと感じましたか。

—そうだねえ。やっぱり平成になってだいぶ変わったんじゃないかな。特に学ランからブレザーに変わった事もとても大きかったかなあ。女の子も増えてたから取っ組み合いのケンカとかゴミが散らかるなんてことも無くなったように思うね。その頃まではホントにむさ苦しかった。(笑)「

—クラスに女子数人ですもんね(笑)。

—女の子が増えたころからは、やはり日下先生のようなタイプですとかなり好かれたとは思いますが、...
「...」

「**人生のターニングポイントでアドバイス出来る立場にいたかった。**」

—では日下先生自身のお話をもっと詳しく聞かせて頂きたいのですが、やはり日下先生の鶴ヶ丘生活は空手道部、という事が一番大きなものになるのでしょうか。

—まあ、部活動でいる時間は授業で生

退任セレモニーでの様子



日下先生

退任インタビュー



2011年2月、長きに渡り、鶴ヶ丘を支えてきた日下先生が退任されました。なぜ教員を目指そうと思ったのか、教員生活を送ってきて見えたものは何なのか。

先生は、何を思い、感じ、見てきたのでしょうか。

「部活ばかりでも勉強ばかりでも良くない。学校は車の両輪だから。」

—去る2月、ご勇退されました。

2月8日が正式な退職日かな。ただ、年度内は授業も受け持っていましたよ。

—日下先生が鶴ヶ丘に赴任されてきたのは、いつ頃でしょうか。

昭和45年です。

—その頃の鶴ヶ丘は振り返ってみ

2011鶴ヶ丘祭は 9月10日(土)・11日(日)です。

※会報誌またはHPで「情報を載せて欲しい」ということがございましたら、事務局までご遠慮なくお問合せください。

日頃は日本大学鶴ヶ丘高等学校同窓会に対して数々のご高配ご支援を賜り心より厚く御礼申し上げます。

同窓会では創設五十周年を記念して寄付事業を開始いたしました。趣旨にご賛同いただける方に事業に資するための寄付を募らせていただきたく存じます。

ご賛同いただいた各位には、心より感謝申し上げますとともに、寄付者のご氏名を本会広報等で公表させていただければと存じます。(公表を望まない場合は匿名とさせていただきます。)

未筆ではございますが皆様の今後ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

- 募 金 要 項 一口 2,000円
- 募 金 期 間 2011年4月1日～2013年3月31日
- 募金対象事業 同窓会創設50周年記念事業(学校への記念品贈呈・他)
- 御申込み方法 以下のお振込先宛にお願い致します。
銀行名：みずほ銀行
支店名：神田支店
口座名義：日本大学鶴ヶ丘高等学校 同窓会
口座番号：普通1239831
- 備 考

- ◎寄付者の氏名・名称・金額等は本会広報等で公表させていただきます。
(ただし、寄付者が公表を望まない場合には匿名と致します)
- ◎寄付金等の用途については本会所定の会計監査を受け、総会の決算報告にて報告させていただきます。
- ◎本会への寄付行為は税法上の寄付金控除の対象となりませんのでご了承ください。
- ◎上記含め、寄付金に関する規約を本会ホームページに記載しております。

連絡先

日本大学鶴ヶ丘高等学校 同窓会 事務局

住 所：〒168-0063 東京都杉並区和泉 2-26-12

メー ル：tsurugaoka@ntdosokai.org

徒と接する時間より長いし、濃密な付き合いをすからやっぱり思い入れは強いよね。この前の退任セレモニー(空手道部主催の目下先生の退任セレモニーが2月に行われ、同窓会も参加させていただきました。)でもOBで子どももいる人も結婚している人も合わせて二百人くらい来てくれて、〈形〉までやってくれたしね。そういう意味でも空手道って個人的にも教師としても大きな存在だったかな。

—ではその空手道を目下先生はいつ頃からやってらっしゃったのですか。
中学校3年生の時から、道場ですとやっていったんだよ。

—やはり空手道をやっていたことがきっかけで教師になろうと思ったのですか。
いや、教師を目指そうと思った理由はね、そこじゃないんだよ。実は僕は中学卒業してから、一年間就職してたんだよ。中学校3年生の時は成績も上位の方にいたから当然周りは進学するものだと思っていたらしいけど。

ど。色々あって、世を拗ねたりしてたから働きながら定時制で勉強するって、自分で何でもやろうとしたんだけど、難しいなと。自分は甘かったなと思っただよ。それで高校を受けなおしたんだよ。

—それは中学浪人みたいな形だったんですか。
そう、今でいう過年度生みたいな形かな。それがきっかけで大学まで行くと思ったんだよ。

—それは入学したところから、ということですか。
そうだね。僕は二年間だけど人生でロスタイムがあったわけだから、そういう子を出したくなかったのかな。僕もあの当時迷っていた時だったから担任の先生に就職せずに高校行けよって強く推されていたら違ったかもしれない。そういう事がきっかけで大学に行ける環境があるなら大学に行っただ方がいいなと思って、その為には教師になろうと思った。自分で何でも出来ると思わず、親に甘えて大学進学し

の方が良いなと思うんだ。

—出来るだけご自身のような生徒を出さない為にという思いですか。
僕自身を振り返った時に、出来なかつたわけだからさ。それで教師になろうと思ったよね。人生のターニングポイントでアドバイス出来る立場にいれば良いなと。そうするとやっぱり教師かなと思っただよ。

—教師になられて今振り返ってみて後悔はありませんか。
後悔は全くないね。強いて言えば高校時代とかにもっと勉強しておけば良かったなと思うくらいかな。運動ばかりだったから。本もほとんど読まなかつたし。読むようになったのは大

学を出てからだからね。
—来年度(インタビュア当時)以降はどうなさるんですか。
書類上は非常勤で役割的には師範として空手道部を教えていますよ。二十二年連続インターハイ出場がかかっているしね。

—これからも鶴ヶ丘に携わって頂けるといふ事ですね。
身体を害さなければね。だからまだ数年はそういう形でやっていけると思っよ。

—では最後に、目下先生にとって鶴ヶ丘とはなんですか。
僕を育て、高めてくれたところだね。生徒と一緒に四十数年成長できたところですね。

—ありがとうございました。



Retirement
From
Office
Interview



【当時の鶴高新聞】

程経った頃、会社が吸収合併される話が見え隠れした時にちよつと脱出して、ひとりで起業したんです。

—その時に「一番起業に向かわせたものは何でしたか」

それは当時のお客様ですね。「辞めちゃうの?」と言われるとやはり引きずるものがありました。せつかくお客様や知り合いもできたのに、こつこつ信頼関係がなくなってしまうのはもったいないなと。

—起業する際に苦労した点をお聞かせ下さい

資金繰りや信用がないのは苦労しました。ただ、それは一般的に起業する誰もが経験することだからと覚悟の上でやっていたのですが、なくなったホチキスの芯やクリップ

も全て自分で買いに行ったり、アルバイトの電話番号が急になくなって困ったり、今まであつて当たり前だったものがないと、こんなにも手間がかかるのかと思いましたね。

—鶴高時代で印象的な思い出をお聞かせ下さい

新聞部でしたから、文化祭のパンフレットの編集と鶴高新聞の発行です。

鶴高新聞というタブロイドの四ページものの新聞を年に四回くらい発行してました。一面に学校のコースを、二・三面が時期ごとの特集記事か何かで、最後の面が皆から集めた詩とかの文芸欄だったと思います。吉祥寺にある印刷会社で校正をした思い出があります。

私が部長だったので顧問の先生

と相談のために職員室で話すということがありましたが、活動はほとんど生徒に任せてくれていて、原稿の最終的なチェックを見てもうつくらいでした。それもほとんどノーチェックでしたが(笑)

—現役当時の鶴高はどのような様子でしたか

良い意味で生徒が点でばらばら。本当に真面目に勉強する人もいるし、他校の女子と交流を深めるのに情熱を燃やしている人とか、色々なタイプの人達がいたっていうのは非常に面白い時でした。団塊の世代ですから生徒数が多いんです。一学年九五〇人、クラスに六十人か六十五人くらいいたと思います。

—この場を通して同窓生へ伝えた

株式会社 アクセスホールディングス
代表取締役会長 兼 社長

木村 春樹さん
(きむら・はるき)



昭和43年卒業生。株式会社アクセスホールディングス代表取締役会長兼社長。アクセスホールディングスは持株会社として、株式会社アクセスプログレス、株式会社アクセスリード、株式会社アクセスヒューマネクストの3社の事業会社を有し、統括を行っている。

東京本社と、北海道・東北・中部・関西・中四国・九州の各支社で、進学・就職など人生の節目に対する情報提供会社として、それぞれプロモーション、採用広告、学校広報事業等を展開している。業種は情報発信サービス、並びに広告業。

<http://www.access-t.co.jp/hd/>

卒業生インタビュー

昭和43年卒業

昭和四十三年卒業生であり、十年のサラリーマン生活を経て、三十三歳の時に会社を起業し、現在200人近くのグループ会社にも成長させた木村春樹さんにお聞きしました

—何故起業しようと思ったのですか
今はもう廃部になってしまいましたが、鶴高時代に新聞部だったんです。新聞の編集をしながら、新聞や文化祭のパンフレットに載せる広告を近所へとりに行っていました。それが原点です。大学でも日本大学新聞で取材記者活動をしていましたが、それとは別に私の役割として広告も担当していました。その縁もあって広告会社に入社して、十年

よね。

—最後に、木村先輩にとって鶴高とは何でしょう？

要望になってしまいかもしれませんが、他の日大の付属高校とは違う、鶴高としてのひとつのカラーを打ち出していく方がより鶴高らしさがつくられてきて、より魅力ある高校につながっていくのかなと思います。いろんなことで特色を出してもらいたいな、という希望がちょっとあります。

好きですね。三年間通ったこともあるし、今でも近くを通ったりすると、ぞくぞくする…スポットですよね。自分にとっては、好きっていうのかな、すごく気になる母校ですね。

—本日はありがとうございました。



いことはありますか

やっぱり意識して母校を愛するといふことでしょうか。充実した高校時代の三年間を見つめた時に自分にとって貴重なものだった、そういう風に思ってもらいたいなと思います。

―起業を考えている人へメッセージをお願いします

今の仕事に実直に取り組んでいく中から将来の起業につながる方向性が見えてくるかもわからない。やってみたいことを地道にやっていると、時代だとか自分の家庭環境を含めていろんなタイミングっていくのがあると思うんです。それをくすしてまで起業することに先走ると、思うように歯車が合わなくなってしまうのではないかと思います。だから、自然体でいるのがいいんじゃないでしょうか。

私の場合は、吸収合併される時に

起業するか、どこかに勤めるか、あ

るいはそのまま居残るか、選択にごく迷ったんです。起業する意欲があった訳じゃないから準備も何もしなくて、本当に自分のできる範囲の狭いところからひとりで起業して、そうしたらありがたいことに前の会社の人がぼつりぼつりと仲間に加わってくれて、徐々に会社らしい体裁を整えて、現在に至りました。

―起業する際に新聞ではなく広告でやっていたことと思われた理由、広告の魅力は何でしょうか

大学で広告をやったのがきっかけ

ですが、その中で

広告は経済的な意味での源泉で、新聞を発行する上で非常に大事な役割を持っていてと感じたのがありますね。

また、広告と

いうのはそのお客さんの要望をどれだけ最大限引き出して

表現できるのかというところに面白さがあって、そうやって自分で作った広告が喜ばれると嬉しいです



景観変容が著しい神楽坂
牛垣さんはこのような都市空間の
変容に関して研究されている。



手助けもしています。また外部の大学では幾つか講義も受け持っています。

—何故現在の専門分野について興味をもったのですか

そうですね、大学二年生の時に指導教員であった佐野先生の授業を受けた事がきっかけですね。その授業では都市地理学の基礎について学びました。特に興味深く感じたのは、東京などの都市は見無秩序に見えるけれど実は、一定の法則があったという事です。

—学問の道を志そうと思ったきっかけは何で

すか。

高校二年生の時、家庭科の瀬田先生の授業でレポート課題が出され、私は差別問題を取り扱ったんです。その時、このテーマは自分の一生の仕事にしようと思ったんですね。今思えば瀬田先生のお陰で今の私がいるのかなと思いますね。

—なるほど。しかし、牛垣さんの専門は都市地理学ですが、差別問題からは遠い様にも思いますが。

都市って人の集まりですよ。そこでは差別含め色々な問題が起きます。地理学ではそれを二つへハコクとして捉えるんです。それを通して問題を解決したり、そこで生活している人が快適に暮らせる、都市地理学とはそういう学問でもあると思うんですね。

—なるほど。ではそのレポートは牛垣さんにとって大きな分岐点になったわけですね。

はい。当時、このレポートは今後アクションを起こさなければ何の意味もないものになってしまっけれど、何か起こせば素晴らしいものになると。その為にはこれからの自分の行い次第だ、と強く思いました。

—では次に高校の頃の思い出などお聞かせください。

私は三年間野球部だったんですけど、最後の大会でベンチ入りは出来たのですが結局試合には出られませんでしたね。失敗したときの周りからの反応が怖くて、、、技術的な事よりも精神的な弱さが大きな原因だと思っています。ちょっと苦しい思い出ですね(苦笑)。



日本大学文理学部地理学科助教

牛垣 雄矢さん

(うしがき・ゆうや)



平成9年卒業。日本大学文理学部地理学科、同大学院理工学研究科を経て日本大学文理学部地理学科助手となる。現在は日本大学文理学部地理学科助教。専門は都市地理学、歴史地理学、江戸東京都市論。

卒業生インタビュー

平成9年卒業

平成9年ご卒業で現在日本大学文理学部地理学研究科の助教でいらっしゃる牛垣雄矢さんにお話を伺いました。鶴ヶ丘時代はどんな生徒だったのか、現在の研究者という立場へと導いたモノはなんだったのか。研究職の第一線で働いている彼に迫りました。

「指導者が枠を作ってしまったのは可能性の制限である」

— 現在のお仕事について詳しく教えてください。—

はい、地理学科で自身の専門分野である都市地理学の研究を進めるとともに、学生たちの生活を円滑に送れるように事務処理などの

鶴ヶ丘高校がある杉並区和泉。在校時、意外に探索されなかった方が多いと思います。そんな和泉で見つけて来ました。



「雑な動物1」



これを公共の看板として使う... 杉並区も捨てたもんじゃないですね。



「雑な動物2」



杉並区にはこういう趣向の人が多いのでしょうか。



「誰よ?」



猫耳と尻尾が見えてますよ兄貴。バスターエンドラン体制で左打ちなのも見逃せません。



いずみ



新発見!!

～ 怒涛の看板編 ～



「便利屋さん」



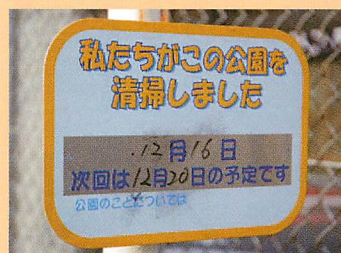
「なんでも」って強気で言ったけども、「やっぱり応相談で…」という感じでしょうか。



「公園も合理化」



「学校から帰ったら『遊び場96番』なあ」とか言う姿を想像したのですが…。



「恩着せがましい」



さりげなさこそが日本人の美德であり、共助の基本だと、高校時代に教わりました。

—印象に残っていらっしゃる先生はいますか。

—実は三年間、現代文の担当が中野優子先生だったんですよ。先生の授業は三分間スピーチとか新聞記事を自分なりにまとめてクラスで発表するというモノが多くて。僕はそういった事が好きで僕なりにまじめに取り組んだんですよ。そのおかげであまり成績が良くなかった中、現代文だけ年々成績が上がっていった最終的にへ5を取れたのは嬉しかったですですね。親しみやすい先生の性格もあり、中野先生は印象に残っていますね。

—昨年、お子様が生まれたと伺いました。公私共にご自身が指導する立場となりましたが、どういった事に注意していかれますか。

—そうですね。指導者が枠を作ってしまうのは良くないと思うんです。枠があると生徒は枠の中です。成長しない。指導者の想像を超えて成長することがなくなってしまうんですよね。子どもの可能性の制限です。伸びてくるモノは伸ばし、道に逸れたら修正してあげる。そういう意味で教育って手入れの思想だと思います。

—最後に今後は鶴ヶ丘とどのように関わっていかうとお考えでしょうか。

—近年、教員としての立場として見えますが、地理学科に来る鶴ヶ丘出身の生徒は勉強を頑張る子も来るし、将来有望そうな面白い子も来ているように感じます。逆にそういう意味では鶴ヶ丘に感謝して

—いますし、そういう子たちを指導してあげたいと思いますね。

—本日はありがとうございました。



プロモーション・業務推進のベストパートナー
株式会社アクセスプログレス

代表取締役 **白鳥 範夫**

本社◎東京都渋谷区渋谷2-15-1 渋谷クロスタワー24階
TEL03-5774-2320 FAX03-5774-2311
http://www.access-t.co.jp/pg/

自動販売機設置
セラインターナショナル株式会社

代表取締役 **中田 俊哉**

本社◎千代田区神田佐久間町2-18 森本ビル1階
営業本部◎千代田区神田錦町3-16 五十嵐ビル5階
TEL03-3851-1673 FAX03-3851-1624
nakata@jskyweb.co.jp

NDD
社団法人 新地域研究機構

昭和46年卒業(3年A組)
会長 **石川 昌三**

東京都千代田区神田錦町3-16 五十嵐ビル5階
TEL03-3518-0105 FAX03-3518-0106
ishikawa@nddj.org

株式会社 飯田

昭和55年卒業(3年F組)
代表取締役 **飯田 哲司**

本社◎東京都千代田区神田錦町3-16 五十嵐ビル5階
新宿オフィス◎新宿区歌舞伎町2-40-5(歌舞伎町パーキング内)
TEL03-3518-6433 FAX03-3518-8299
jinhai@live.jp

東京都知事免許(9)第38022号
東京都宅地建物取引業協会会員
有限会社秀明商事

昭和34年卒業
代表取締役
取引主任者 **根岸 辰行**

東京都杉並区永福4-32-7 シュウメイハイツ101
TEL03-3325-9684 FAX03-3325-9687

月島デンタルクリニック

昭和53年卒業
院長 **桑川 良輔**

診療所◎東京都中央区月島2-15-16 清月ビル2階
TEL03-3531-1165

日本大学法曹会所属
昨年同様 高村法律事務所

昭和54年卒業(3年E組)
弁護士 **高村 定憲**

"民事一般、倒産、クレジットサラ金、労働、不動産関係、親族相続、
会社関係、刑事事件、各種法律相談"
東京都杉並区荻窪4-32-3 AKオギクボビル5階501号室
TEL03-3398-8880 FAX03-3398-8890

三井住友海上火災保険株式会社 三井住友海上きらめき生命
ソニー生命保険株式会社

株式会社三光リンクホールディングス

代表取締役 **小市 誠**

東京都渋谷区代々木2-23-1 1166号
TEL03-5351-3500 FAX03-5351-3501

山岸設計事務所

昭和53年卒業
山岸 祥一郎

神奈川県横浜市中区山手町272-1-308
TEL045-211-0161 FAX045-211-0162

昭和55年卒業(3年H組)
阿部 栄介

※順不同

同窓生のお店探訪



西荻窪 やきとり



「若い人に少しでも良いから本物を知ってほしい」

西荻窪駅前商店街を抜け、路地に入ると今回のお店へやきとり 雅(は)がある。暖簾を潜ると女将さんの元気な声が迎えてくれる。一見ただの気ある居酒屋のようにも見えるが、雅は一味違つと感じた。「お客さんはさ、ここに夢を持ってくるんだ。だから良いお酒を置いておかないといけないんだよな。」と筒井 治(はる)雅(まさ)さん(昭和43年度卒業)が語るように確かにカウンターの上の棚にギッシリ

の(夢)日本酒が敷き詰められている。良く見かける銘柄から値段も旨い銘柄までとにかく種類が豊富だ。志太泉酒造の中汲み原酒 泉を飲んだ時だ。「お酒にも当然グレードがあるのよ。今飲んでる泉なんかは、車で言う

とセルシオ位だな。「ユーモアのある店主で、この様に日本酒の説明を面白くしてくれる。ちなみにこの泉は、

織細であるにも拘らず力強さも兼ね備えたお酒でも美味しかった。「飲まないやつに限って口ばかり達者なんだよ。俺はペン師になりたくない。浅はかな知識じゃいけないんだよな。だから足掛け37年毎年欠かさず何処かの酒蔵に行ってるんだよ。」ユーモアでありながらも日本酒に対しての拘りは譲れないという熱い気持ちも持っているのだ。

もちろん、雅は日本酒だけしかないという事はなく、焼き鳥から始まりモツ煮、コロッケなど一品品が手作りで全て本当に美味しいのだが、特にその日の朝築地で仕入れた食材を使った当日のみの「本日のメニュー」が新鮮

でもとても美味しい。取材日にあつたものでは「アジのなめろう」が大変に美味しかった。味噌やネギの風味をほのかに出しながらもアジ本来の味をしっかりと残している。「若い人にはオイルとかソースの味しかならないものに毒されてほしくない。若い人に少し食べてもらうだけで良いから本物をしつ

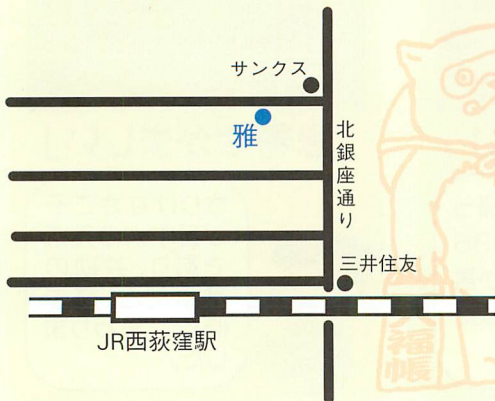
てほしい。」店主は素材が良ければ調理はほんの少し手を加えればいだけだとも語っていた。まさに「アジのなめろう」はその店主の意思を体言化していた。

普段ならば美味しい粋なお店を見つけた、という感想で終わるところだが、店主が同窓生という繋がりがあるだけで通い詰めたくなるから不思議だ。皆さんもぜひ一度夢を飲みながら本物を食べに来ては如何でしょうか。



西荻窪 やきとり「雅」

住所…東京都杉並区西荻北3-31-10
TEL…03-33695-9667
定休日…定休日無し
アクセス…西荻窪駅北口より北銀座通りを北上、サンクス手前を左折すぐ



校歌

Tempo di marcia ♩ = 112

出 口 忠 作
村 田 英 夫 詞 曲

1) は て き し な ず き る あ い お ぎ お 一 そ ら い は は ば た く
2) わ し い る か ず ず ふ よ 一 ぎ み が か 一 よ か ね は わ か そ ざ り く
3) み は いる か ず ず ふ よ 一 ぎ み が か 一 よ か ね は わ か そ ざ り く

は し ろ が ね の つ る せ い し ゅ の り そ ー あ お ぎ て
ら ゆ た か ね に お う せ く い し ゅ の り そ ー あ お ぎ て
つ は く あ の ほ こ う も ろ き の み ど り は さ や に

た か か に あ ま か け り ゆ く く
い ざ と も に 育 み ゆ か ん
む づ つ み あ い 永 遠 に 栄 え ん
あ わ れ ら 日 本 大 学
鶴 ケ 丘 鶴 ケ 丘

わ れ ら に ほ ん だ い が く つ る 一 が お か つ る が お か

※昭和46年に制定

- 一、果てしなき 碧き大空
羽ばたくは 銀の鶴
青春の理想仰ぎて
高らかに 天翔りゆく
あゝわれら 日本大学
鶴ヶ丘 鶴ヶ丘
- 二、湧き出づる 泉かゝよい
若桜 ゆたかに匂う
紅ぞ われらが生命
いざとも に 育みゆかん
あゝわれら 日本大学
鶴ヶ丘 鶴ヶ丘
- 三、見はるかす 芙蓉の高嶺
そゝり立つ 白壁の母校
諸木々の みどり葉さやに
むつみあい 永遠に栄えん
あゝわれら 日本大学
鶴ヶ丘 鶴ヶ丘

編集後記

まず、同窓会誌を制作するにあたり最初のメンバー会議で決めたことはへ誰にとつても読みやすい会誌にしようという事でした。そこで記事に臨場感を持たせる為に胸像の写真ではなくインタビュー時に撮影した写真を使用し、読み応えのある内容にする為にインタビューも様々な角度から質問致しました。

今回はメンバー全員、制作が初めてということもあり、勝手かわかりませんでした。次号へ活かせる反省もありますので次号は更に良くなると確信しております。また、今回の会報誌に関してご意見、次号以降へのご希望があればメールにてお申し付けください。今後ともよろしくお願い致します。

◆編集スタッフ◆

中村 泰輔	上嶋 貴仁
清水 真依子	横渡 友夏
天岡 佑太	中村 実加
小野崎 大地	

日本大学鶴ヶ丘高等学校 同窓会

発行人：阿部 栄介
編集：会報誌制作委員会

Mail: tsurugaoka@ntdosokai.org
URL: http://ntdosokai.org/